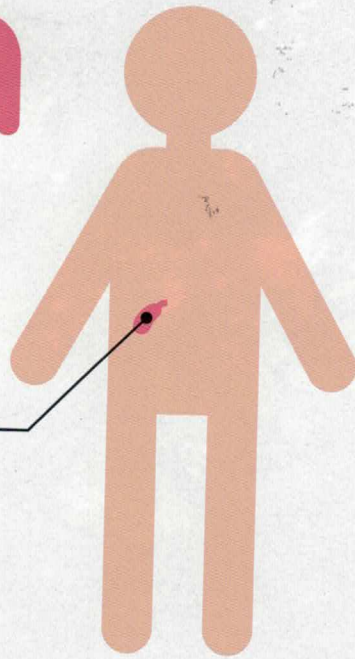


臓器のはなし



今月は 胆のう

消化を助ける胆汁 胆石から胆のう炎に

見つけにくい胆石は
人間ドックで

西洋梨のような形をした長さ10cm・幅4cmほどの小さな袋状の臓器が、胆のうです。肝臓と十二指腸をつなぐ管の途中に位置し、肝臓で作られる胆汁を50〜60ml貯えることができます。胆汁は油(脂肪)を分解するために必要な消化液で、肝臓で1

日に作られている量は約1リットル。胆のうに溜められている間に胆汁自体の水分が吸収されて、5〜10倍に濃縮されます。

体内に取り入れた食べ物が十二指腸に到着すると、自律神経により、胆のうは筋肉を収縮させて胆汁を押し出します。そして胆汁が管を通り、十二指腸に注がれます。このように胆汁の流れる道が、胆管です。

食べ物のなかでも特に揚げ物やラーメンなどの脂っこいものを食した後に、胆のうはより強く反応してギュッと収縮します。その際、胆石があると痛みの発作を引き起こします。ただし胆石が胆のうに存在したとしても、必ず痛むとは限りません。少量の胆石が転がっているだけなら痛みは感じないでしょう。ですから、人間ドックで行う腹部の超音

波検査で胆のうを診てもらって初めて、胆石があると知る人が多いのです。また胆石が溜まりやすい場所は胆のうだけではなく、肝臓の中から始まり消化管に繋がる所まで、つまり肝臓やすい臓を通る胆管の中など、いろいろな場所にできます。

手術で切除しても

問題ない場合が多い

胆石(結石)ができる原因や種類は、さまざま。たとえば、食事のときに脂質を摂りすぎると胆汁のなかでコレステロールが固まり、少しずつ大きくなって石になります。また消化液の成分が固まったような胆石もあれば、その両方が混じり合ったようなものもあります。

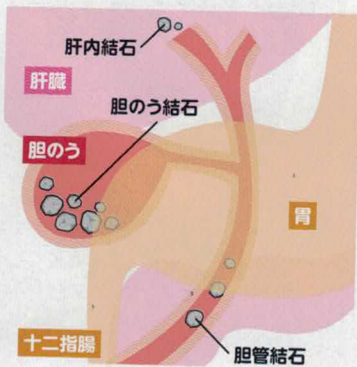
この胆石による刺激と腸から逆流して入ってきた細菌が原因で起きる炎症が、胆のう炎です。腹痛や発熱などの症状が表れ、ひどくなると腹膜炎につながりかねません。特に急性腹膜炎は非常に危険な病気です。

基本的に胆のう炎は、発症した最初の1、2回は抗生物質の注射を打つて様子を見るケースが多いと思います。ただし何度も繰り返すよう

な場合、胆のうを手術で取り除きます。胆のうがなくなることで胆汁は濃縮されませんが、胆汁の分泌がなくなることはありません。

また肝臓と十二指腸を結ぶ胆管に結石が詰まった時も消化液が流れなくなり、痛みが出てきます。その場合は胆石の大きさや位置にもよりますが、特殊な胃カメラを入れて鉗子かんしを用いて結石を取り除くことができます。ただ胆石ができやすい人は何度も排除する必要があります。

なお、胆石のある人のほうが胆のうがんを患う確率が高いという報告がありますが、症状のない場合には違つとの報告もあり、まだはっきりはしていません。しかし、もし胆石が見つかったら、定期的な検査は受けておくべきでしょう。



監修

浅海 直
あさうみ すなお
(医療法人社団
平成医会 産業医)



1993年千葉大学医学部卒。2007年12月まで松戸市立福祉医療センター東松戸病院(内科副部長)、2008年1月より板橋区役所前診療所に勤務。専門分野は糖尿病、脂質異常症、甲状腺疾患等の代謝・内分泌疾患および老年医学。